

カメムシとともに39年



友国雅章（とくにまさあき）
動物研究部・部長・学術博士
1946年兵庫県生まれ
趣味：ソフトテニス・釣り

私の研究

私の専門はカメムシ類の系統分類学です。なかでも、グンバイムシ科、ナガカメムシ科、サシガメ科などを対象に研究しています。

きっかけ

私は「昆虫少年」でした。将来は昆虫の研究者になるのが、子供の頃からの夢でした。1970年に愛媛大学の大学院に進学したとき、はじめて出会ったのがコケにすむマルグンバイ(写真1)でした。小さいながらも、細かい網目模様のはねをもったこの虫に強く引きつけられました。研究材料の採集を始めてまもなく、徳島県の剣山でこれまで知られていなかった種(写真2)を発見し、ツルギマルグンバイという新種として発表しました。それから39年間、グンバイムシを含めたカメムシのなかまの研究を続けています。



写真1 マルグンバイ
Acalypta sauteri



写真2 ツルギマルグンバイ
Acalypta tsurugisana



写真3 *Sphedanolestes albipilosus*

今、サシガメが面白い

今もっとも力を注いでいるのは「アジア産サシガメ科の分類学的研究」です。このなかまは中国にたくさんの種がいて、日本のサシガメを調べるには、中国の種との比較が欠かせません。中国の優秀な研究者(彩万志教授)や日本の若い研究者とともに共同研究を行っています。その成果として、我々が発見した新種のサシガメをいくつか紹介します(写真3-6)。



写真4 *Reduvius yaeyamanus*



写真5 *Tiarodes miyamotoi*



写真6 *Cosmosycanus perelegans*

日本のカメムシインベントリー

私のもうひとつの研究テーマは、『日本にどのようなカメムシが、どのように分布しているか』を明らかにすることです。このような研究をインベントリーといいます。私が研究を始めた頃、日本から知られているカメムシ類は800種足らずでした。私を含めた数名の専門家と日本各地のアマチュア研究家の協力で(写真7)、今では1,200種近いカメムシ類が日本に分布していることが分かっています。

日本のカメムシインベントリーに大きく貢献したのが、数人の仲間と一緒に1993年に出版した「日本原色カメムシ図鑑」(写真8)です。この図鑑の登場で、カメムシに興味を持つ昆虫愛好者が増えました。その結果、あちこちで新種や日本未記録種が見つかり、日本のカメムシの種数は著しく増えていき、今でも毎年新しい発見が続いています。



写真7 カメムシ仲間と石垣島で調査(1997)



写真8 日本原色カメムシ図鑑(1993)

これから

もうすぐ私は定年を迎えます。幸い、このような研究は大がかりな設備がなくてもできるので、リタイアしてからも日本のカメムシ相の解明をめざして、楽しみながら研究を続けたいと考えています。